

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 8 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02823

研究課題名(和文) Parrishの学習経験要因モデルによる主体的学習者育成プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development and evaluation of independent learner training programs using Parrish's learning experience factor model

研究代表者

仲道 雅輝 (Nakamichi, Masaki)

愛媛大学・教育・学生支援機構・准教授

研究者番号：90625279

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、学習経験の質を高めることを通じて主体的学習者を育成する学習経験要因モデルによる主体的学習者育成プログラムの開発である。本成果により、高等教育における初年次教育プログラムを改善し、学生の学習経験にはたらきかけることで主体的学習者への成長を支援した。国内外の先行研究調査を経て、授業改善ヒント集を日本リメディアル教育学会誌に投稿し実践報告として採録された。さらに、教育実践への適用を試み、PBL型授業で実施しており、受講学生を対象としたデータ収集と分析を行った。成果は、大学教育実践ジャーナルに採録された。最終年度は、ヒアリングの対象数を増やし、より充実したヒント集を完成させた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ヒント集の実践実績の蓄積は、愛媛大学においてPBL型授業で適用、実施した。実施方法を、学生の学ぶ意欲を引き出す構造となるよう、交流の機会を増やし、企画遂行時のリフレクションを密に行う、自由に意見を言い合える環境をプロジェクト早期から確保する等の改善を実施した。学生間の交流期間を長くすることで、関係性の構築が促進され、満足度や充実度が向上するなど、学生自身の成長の実感につながる等の結果が得られた。このようなヒント集による授業改善が、プロジェクト型教育実践の効果の向上に有用であることが分かった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to develop an active learner development program based on a learning experience factor model that fosters active learners through improving the quality of learning experience. Based on this result, we improved the first-year education program in higher education and supported the growth of independent learners by working on the learning experience of students. After researching domestic and foreign precedent research, a collection of hints for improving teaching was submitted to the journal of the Japan Society for Remedial Education and was accepted as a practice report. In addition, we tried to apply it to educational practice, and conducted it in a PBL type class, and collected and analyzed data for the students who attended the course. The results have been accepted for publication in the Journal of University Education Practice. In the final year, we increased the number of interviewees and completed a more complete collection of hints.

研究分野：教育工学

キーワード：学習経験の質モデル 初年次教育 学習者要因 インストラクショナルデザイン 美学第一原理

1. 研究開始当初の背景

高校から大学への“円滑な移行”を図るため各大学で初年次教育が行われている。しかし、入学後早期にドロップアウトする学生が常に一定数存在し、諸外国においてもその要因が分析され、要因の一つとして「学習経験の質の問題」が注目されている。

学習経験の質の問題とは、授業の中に学習者がどのような学習経験をするかという視点が欠如しているという点である。

学習経験の質に配慮し、学習への深い没入や関与により学習意欲を自律的に高める学習支援とはどのようなものなのか、そして、それはどのように実践するのか。先行研究に、授業経験と学習態度等との関連を調査した報告はあるが、ここでの授業経験は、どのような授業形態(学生同士の議論があったなど)であったかを訊いており、学習者にとってどのような経験だったかに焦点は当たっていなかった。

以上のような学術的背景および初年次教育を取り巻く現状から、我々の研究における核心的問いは、「学習経験要因モデルにおける学習経験の質を高める効果的な学習支援方法は何か」であり、ゴールは、初年次教育において学生の学習経験の質を高めるための「学習経験要因モデルによる主体的学習者育成プログラム」を開発し評価することである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、「学習者要因」に焦点をあて、学習経験の質を高めることを通じて主体的学習者を育成する「学習経験要因モデルによる主体的学習者育成プログラム」を開発することである。

特に、主体的学習者の育成に学習経験の質向上という観点をを用い、教育実践での活用可能な具体的方策を新たに創出しようとしている点が、本研究の特徴である。

本研究成果により、高等教育における初年次教育プログラムを改善し、学生の学習経験に効果的にはたらきかけることで、主体的学習者へと成長することを支援し、自律的な学習経験を備えた社会人を育成する。このような教育活動は、生涯学び続ける力をもった優秀な人材を輩出することを通じて、広く社会に貢献するものである。

3. 研究の方法

まず、国内外の先行研究調査とインタビュー調査により、授業改善ヒント集の Web 等での実践結果の収集と先行研究調査を行った。また、学習経験に関する研究者から研究の系譜に関する聞き取りを実施し、授業改善ヒント集を、研究代表者の研究用ホームページで公開した。

次に、学習経験要因モデルに見識のある教員への半構造化面接法により、学習経験の質を向上させるための授業の工夫についてデータを収集、分析することで、ヒント集の改訂とともに、質問項目を作成し、協力学生数名に実施したプレテストの結果をもとに修正し、完成させた。

学習経験要因モデルによる主体的学習者育成プログラムの開発のために、愛媛大学初年次教育にあたる準正課教育プログラムである「環四国サイクリングプロジェクト」に授業改善ヒント集を適用し、その成果をデータの収集と分析により実践報告として公表した。

<倫理的配慮>

本研究では、「学習経験要因モデルによる主体的学習者育成プログラム」の効果を評価するために、他大学・他学部等を含めた学生・教員へのアンケート調査やインタビュー調査を行った。個人情報の保護については、その方法を事前に説明し、同意を得てから研究に協力してもらった。知りえた個人情報を誤って第三者に漏洩することがないように、ネットワーク上にはデータを保存せず、ローカル環境で保存し、個人情報が含まれる電子ファイルはパスワード設定をするなど、管理方法は十分に配慮した。

紙媒体で収集したデータは、鍵のかかる場所に保管し、研究終了後5年間保管したのち、焼却またはシュレッダー処理をする。収集したデータは、個人と照合ができない形で管理する。プレテストや形成的評価の協力者に関しても、同意を確認した。

研究全般において、研究フィールドとする大学の倫理委員会の定める審査規程に従って行うこととした。

4. 研究成果

ヒント集の実践実績の蓄積は、愛媛大学において PBL 型授業で適用、実施した。実施方法を、学生の学ぶ意欲を引き出す構造となるよう、交流の機会を増やし、企画遂行時のリフレクションを密に行う、自由に意見を言い合える環境をプロジェクト早期から確保する等の改善を実施した。

学生間の交流期間を長くすることで、関係性の構築が促進され、満足度や充実度が向上するなど、学生自身の成長の実感につながる等の結果が得られた。このようなヒント集による授業改善

が、プロジェクト型教育実践の効果の向上に有用であることが分かった。

仲道雅輝，竹岡篤永，根本淳子『初年次学生の学習経験の質に着目した「授業改善ヒント集：学習者要因編」の作成』リメディアル教育研究，第 16 巻，1-11．2021 年．査読有

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 仲道雅輝, 村田晋也, 浅田隼平, 坂本大蔵	4. 巻 21
2. 論文標題 PBL型リーダーシップ教育「環四国サイクリン グプロジェクト」による日台オンライン国際交流の実践と評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 43-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲道雅輝, 根本淳子, 竹岡篤永	4. 巻 16
2. 論文標題 初年次学生の学習経験の質に着目した「授業改善ヒント集：学習者要因編」の作成	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 リメディアル教育研究	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲道雅輝, 玉井輝之, 井上昌善, 村田晋也	4. 巻 19
2. 論文標題 コロナ禍における初年次教育科目のオンライン授業の設計と実践 - 新入生セミナーA (教育学部) での取り組み -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 147-155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲道雅輝	4. 巻 Vol.37, No3
2. 論文標題 主体的に学ぶ姿勢の育成～学習経験の質を高めるために～	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教育システム情報学会誌	6. 最初と最後の頁 230
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村田晋也, 仲道雅輝, 竹中喜一, 中井俊樹, 小林直人	4. 巻 19
2. 論文標題 初年次教育科目における遠隔授業実施支援の取り組み; 「新入生セミナーA」オンラインコンテンツの提供	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大学教育実践ジャーナル	6. 最初と最後の頁 141-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 仲道雅輝, 村田晋也, 許宏徳, 坂本大蔵	4. 巻 22
2. 論文標題 オンラインと対面のハイブリッドによる日台国際 交流に関する一考察～PBL「環四国サイクリングプロジェクト」における実践から～	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学教育実践 ジャーナル	6. 最初と最後の頁 39-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 仲道雅輝
2. 発表標題 Rogersの普及理論を活用したeラーニング普及推進事例
3. 学会等名 日本リメディアル教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 仲道雅輝, 竹岡篤永, 根本淳子
2. 発表標題 Parrishの学習経験要因モデルを用いた授業改善ヒント集「環境要因編」の作成に向けて
3. 学会等名 日本リメディアル教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

学習経験の質モデルに関する研究 https://nakamichi.opar.ehime-u.ac.jp/research.html 学習経験の質モデルに関する研究 http://nakamichi.opar.ehime-u.ac.jp/research.html 学習経験の質モデルに関する研究 http://nakamichi.opar.ehime-u.ac.jp/research.html 学習経験の質モデルに関する研究 http://nakamichi.opar.ehime-u.ac.jp/research.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹岡 篤永 (Takeoka Atsue) (30553458)	新潟大学・教育・学生支援機構・特任准教授 (13101)	
研究分担者	根本 淳子 (Nemoto Junko) (80423656)	明治学院大学・心理学部・准教授 (32683)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------